



# 高小だより

津市立高茶屋小学校  
平成29(2017)年9月  
文責：校長 伊庭 正彦

## 全国学力・学習状況調査、今年度の傾向は

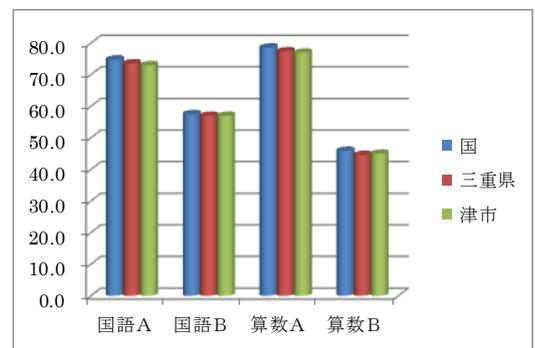
4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が8月末に発表されました。この調査は、右のような目的で実施され、今年で10回目になります。

### 調査の目的

- ・ 学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し改善を図る。
- ・ 継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・ 教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

国語、算数ともにA問題は主として「知識」に関する問題で、B問題は主として「活用」に関する問題です。全国的な傾向としては、学力の底上げ傾向が続いており、過去と比べると地域差の縮小が進んできています。

右のグラフは、国、三重県、津市の平均正答率を比べたものです。三重県は国をわずかに下回っていますが、県と津市はほぼ同じ水準です。



さて、高茶屋小学校の結果ですが、昨年度より各教科で平均に近づきましたが、残念ながら国や県の平均には届きませんでした。今後も引き続き、指導法の工夫・改善等を図っていきたいと思います。

## 高茶屋小の特徴 『国語』では

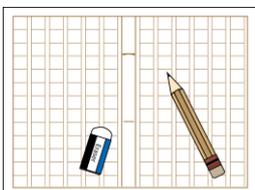
今年度の国語Aでは15問中6問が漢字を読み書きする問題でした。右の表は今年度出題された漢字の問題です。この中で「期限」と「指示」の読みは、高小は全国平均を少し上回りました。

国語A(漢字の問題)	
読み	申込み期限
	事務室前
	指示
書き	参加たいしょう
	4年生のきぼう者
	箱がおいてあります

しかし、漢字を書く問題では全国平均を大きく下回っています。特に「たいしょう」のように、対象、対照、対称など同音異義語がある漢字を正しく書く問題は、

国語Aで最も正答率が低く、全国との差が大きかった問題です。この問題は無回答率も高く、同音異義語は本校の課題のひとつではないかと思えます。

国語Bは大問題が3つ(小問題が全部で9問)だけでしたが、読まなくてはいけない資料が多く40分の時間ではたいへんだったと思えます。特に最後の問題は3人に1人が無回答でした。最後で時間が足りなかったかもしれませんが、物語の文章から取り上げた言葉や文をもとに、理由を明確にしながら自分の考えたわけを60~100字の制限字数で書くことが難しかったのではないかと思えます。やはり、理由を明確にして、まとまった文章を書くことも本校の課題であると思えます。



## 高茶屋小の特徴 『算数』では

算数Aでは、「 $123 \times 52$ 」、「 $10.3 + 4$ 」、「 $6 + 0.5 \times 2$ 」の四則計算の問題では、全国平均を少し上回りましたが、「 $5 \div 9$ （商を分数で表しましょう。）」では全国平均を大きく下回りました。四則計算の技能はある程度身に付けているものの、商を分数で表すことができないという弱みも明らかになりました。

また、立方体の展開図から平行になっている面を見つける問題、資料を二つの観点から分類整理し表を用いて表す問題では、全国平均正答率を10ポイント以上も下回りました。

5

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。

地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べたとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。



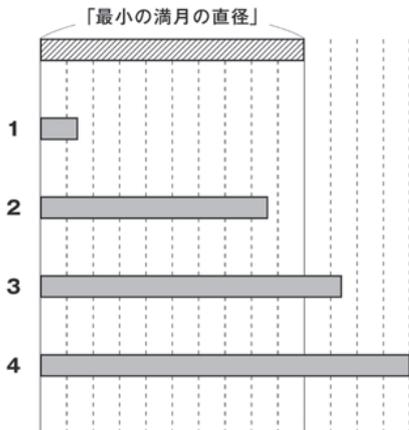
最も小さく見えるとき  
(イメージ)



最も大きく見えるとき  
(イメージ)

(1) 「最小の満月の直径」を , 「最大の満月の直径」を  として、図に表します。

「最小の満月の直径」をもとにして「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



算数Bでは左の問題が、全国平均正答率と最も差がついたものです。問題へ行きつくまで文章をたくさん読まなければなりません、「基準となる図に対して、14%長いことを正しく表している図」を選ぶ問題です。

14%長いものですから、「3」が正解なのですが、約3分の1の人が「4」と答えてしまいました。写真のイメージに惑わされたのでしょうか。14%長いものをグラフから正しく選ぶことができませんでした。無回答も全国の2倍以上ありました。基準量、比較量、割合の関係は、以前から本校児童の弱みです。特に図やグラフに表すことについては、授業でも力を入れてきましたが、本校の取組が十分でないことが示されました。今後も、弱みを克服できるよう工夫・改善を進めていきたいと思ひます。

今回の結果で漢字の読み、四則計算など基礎・基本の定着が改善した部分も見られました。しかし、まだまだ十分でない部分や弱みも多くあります。学校でも工夫を重ねながら指導していきますので、ご家庭でも家庭学習の支援等をご協力をお願いいたします。

